

(平城宮跡のボランティア解説 (無料))

国の特別史跡である平城宮跡をボランティアが解説します。

平城宮跡資料館や遺構展示館、復原された東院庭園、朱雀門などどこも満載、ぜひ平城宮跡の壮大な歴史に触れてみてください。

(各施設休館日 (月曜、月曜が祭日の場合はその翌日))

・備考 団体 (20名以上) は事前に申し込んでください。

申込先: 文化財情報課 (内線208, 219)

研究室紹介

毎回2研究室を順次紹介していきます。

建造物研究室 (文化遺産研究部)

これまで孤立していたかのような建造物研究室は、この4月に新しい組織になって生まれた文化遺産研究部に所属する三つの研究室のひとつとなりました。現在のところ人に移動はなく、研究のめざすところや役割も以前から定まっています。独立行政法人化にあたり5ヶ年の研究計画と予算計画をたて、この目標にそって活動することになったのです。

5ヶ年計画に挙げた研究は大きく分けてふたつあります。

ひとつは、古代から近世に至る伝統建築、集落・町並み、近代建築、近代化遺産など、歴史的建造物全般の基礎調査とその保存修復についてであります。とくにこの5ヶ年の間に、これまで続けられてきたわが国の歴史的建造物保存修復の考え方や手法を明治期までさかのぼって探り、これからの保存に活かすために分析してその結果をまとめることにしています。

もうひとつは、文化庁が奈文研から替わって直接おこなう平城宮第一次大極殿および大極殿院の復原



五分の一構造模型による復原第一次大極殿の検討

事業に対する学術面の指導・助言、さらにはそれらの基盤となる古代建築の総合研究です。復原事業はまさにこれからが本番で、設計や施工段階での細部の研究から復原の具体的な方針にいたる検討などの場面では、これまで研究をおこないながら復原事業をすすめてきた奈文研の研究者の参加がますます必要となります。

建造物研究室はこのような研究を活かし、地方自治体が実施する建造物の基礎調査、集落・町並み調査、近代化遺産の調査などに参加するとともに、建造物の保存修復事業や遺跡の建造物復原事業にも関わっています。

研究室は技官2名と奈良県から文化財修理技師を迎えた3名体制ですが、他の部局の5名と韓国から受け入れた研究員1名を加え、全部で9名が建築関係研究者として活動しています。

考古第一調査室 (平城宮跡発掘調査部)

平城宮跡発掘調査部では、平城宮の発掘調査をすすめるだけでなく、平城京内の宅地や寺院についての発掘調査も行っています。本年度から、考古研究部門3室、建築・庭園研究部門1室、文献史研究部門1室の5調査室体制になり、それぞれ整理研究を分担しています。各調査室つまり、各専門分野のメンバーがチームを組んで知恵を出し合いながら、議論しながら一つの遺跡の発掘調査をすすめていくことが、創立以来の当研究所の基本的な精神であり、世にいう「学際的」な研究をはるかに先取りしてつくりあげられた調査研究体制を継承しているところに、奈良文化財研究所の大きな特色があります。これによりこれまでにさまざまな成果を積み上げてきていることを忘れてはなりません。

発掘調査では様々な遺物が掘り出されるが、瓦と土器を除いたさまざまな出土品の整理、研究を担当しているのが考古第一調査室です。木を使って作られた実に多様な木製品、砥石、石器、宝玉類などの石製品、銭貨、鏡、帯金具などの銅製品、鎌や鋤や刀の刃あるいは釘、かすがいなどの鉄製品、樹木、草本、種子などの植物遺体、馬、牛などの骨などなど、往時の生活文化のありようを明らかにする鍵となるさまざまなモノを研究対象としています。このような多種多様な遺物を取り扱っていることから、整理、分析をすすめるには幅広い知識が要求されることになります。現在研究員は室長以下4人のメンバーであり、また遺物の洗浄からはじまり、コンピューターを駆使した膨大な質量のデータ整理にいたるまで、頼もしい4人の女性陣の支援を受けながら調査研究が続けられています。